



上半期景況はプラス値 通年見通しは慎重 収益増に寄与する 女性の農業経営参画

— 2016年上半年期 農業景況調査 —

日本公庫の農業資金をご利用いただいているお客さまを対象に、2016年上半年期農業景況および雇用状況などの動向に関する調査を行いました。結果概要を紹介します。

から大幅に悪化しました。

通年悪化は天候不順が影響

二〇一六年通年の見通しDIは、調査開始以来の最高値となった一五年の二一・八から一六・〇ポイント低下し、〇・八となりました(図1)。

天候不順が作物に大きな影響を与え、その影響が半期も続くとの判断と見られます。

見通しDIは、一五年と比べて大半の業種で悪化し、稲作(北海道:二〇・二↓▲二九・六)、畑作(三五・二↓三三・七)、肉用牛(四八・五↓一七・八)、養豚(四八・八↓二四・三)、採

ともにマイナス値となりました。背景には販売価格が思うように上がらないことや、消費の低迷に加え、北海道は六月以降の天候不順が影響しています。稲作に加え、畑作(三五・二↓五・二)も天候不順で一五年より大幅に悪化しました。

畜産では、一五年に引き続き販売価格が好調な酪農(北海道:五五・九↓五二・三、都府県:二九・三↓四五・四)、肉用牛(四八・五↓四〇・五)、養豚(四八・八↓四二・二)のDI値が高い水準にあります。他方で、採卵鶏(七一・〇↓三三・六)、ブロイラー(五一・九↓一四・〇)は販売価格が昨年を下回って推移していること

一方、稲作は北海道(二〇・二↓▲六・三)、都府県(▲三・八↓▲三・八)

全体でわずかに低下

二〇一六年上半期(一〜六月)の農業全体の景況感を示す景況DIは、多くの業種でプラス値を維持したものの、北海道稲作や畑作が天候不順の影響で悪化したことなどを受け、一五年の一六・八から四・八ポイント低下し、二・〇となりました(図1)。

業種別では、茶(▲五三・一↓▲九・八)の景況DIが大幅に改善しました。茶は消費低迷の状況にあるものの、燃料価格の下落や販売価格の上昇により収支が改善しています。同様の理由で果樹(二一・五↓一七・六)、施設花き(▲五・九↓一〇・五)も改善しました。

図1 農業景況DI天気図

経営部門	2015年	2016年		
	実績(通年)	実績(上半期)	通年見通し	
農業全体	16.8	12.0	0.8	
耕種	稲作(北海道)	20.1	▲6.3	▲29.6
	稲作(都府県)	▲3.8	▲3.8	▲9.2
	畑作	35.2	5.2	▲21.0
	露地野菜	14.3	7.3	▲3.0
	施設野菜	20.3	19.6	17.8
	茶	▲53.1	▲9.8	▲7.0
	果樹	11.5	17.6	17.7
	施設花き	▲5.9	10.5	9.5
	きのこ	15.2	10.0	20.0
	畜産	酪農(北海道)	55.9	52.3
酪農(都府県)		29.3	45.4	37.5
肉用牛		48.5	40.5	17.8
養豚		48.8	41.2	24.3
採卵鶏		71.0	33.6	▲12.8
ブロイラー	51.9	14.0	8.7	

[DIの値とお天気マークの関係]



卵鶏(七・一〇)↓(二・二八)、ブロイラー(五・一九↓八・七)は大幅に悪化となりました。

一方、茶(▲五三・二↓▲七・〇)、果樹(二・一五↓一七・七)、施設花き(▲五九↓九・五)、きのこ(二・五二↓二・〇)、酪農(都府県:二九・三↓三七・五)は改善の見通しとなっています。

農業を取り巻く環境は改善

天候不順による生育不安などを理由に農業景況全体は低下したものの、生産コストDIや販売単価DIといった農業の経営環境を示すDIは改善しました(図2)。

生産コストDIは農業全体で一五年(▲四四・七)から二一・四ポイント改善し、▲三三・三となりました。円安から円高に転じたことで輸入原材料価格が低下し、生産資材価格や、燃料価格、飼料価格の下落により、生産コストDIが改善しました。しかし依然として厳しい状況にあることには変わりはなく、例えば、肉用牛は▲三三・七と一五年(▲六三・二)から二九・四ポイント改善するも、肉用子牛の価格が高騰していることなどから、生産コストDIは引き続き低い水準にあります。

販売単価DIは農業全体で一五年の二一・二から〇・九ポイント低下し、二二・二となりました。茶(▲

図2 生産コストDI、販売単価DI、設備投資見込みDI天気図

経営部門	生産コストDI		販売単価DI		設備投資見込みDI		
	2015年 実績(通年)	2016年 実績(上半期)	2015年 実績(通年)	2016年 実績(上半期)	2016年	2016年 半年経過時	
農業全体	▲44.7 ↗	▲23.3 ↗	13.1 →	12.2 →	▲12.8 ↗	5.8 ↗	
耕種	稲作(北海道)	▲44.1 ↗	▲34.8 ↗	10.1 →	調査せず(注)	▲11.8 ↗	▲3.0 ↗
	稲作(都府県)	▲36.5 ↗	▲25.1 ↗	7.0 →	調査せず(注)	▲9.9 ↗	7.7 ↗
	畑作	▲63.7 ↗	▲38.9 ↗	▲15.4 →	調査せず(注)	0.2 ↗	16.8 ↗
	露地野菜	▲56.8 ↗	▲35.6 ↗	▲10.0 ↗	▲2.3 ↗	▲16.2 ↗	▲7.8 ↗
	施設野菜	▲41.0 ↗	▲19.1 ↗	▲0.6 ↗	3.3 ↗	▲22.9 ↗	3.4 ↗
	茶	▲30.1 ↗	▲5.6 ↗	▲59.4 ↗	▲10.5 ↗	▲43.7 ↗	▲16.6 ↗
	果樹	▲48.4 ↗	▲31.9 ↗	10.9 ↗	19.5 ↗	▲23.6 ↗	▲15.4 ↗
	施設花き	▲33.5 ↗	▲26.7 ↗	▲15.4 ↗	▲9.9 ↗	▲43.8 ↗	▲25.9 ↗
	きのこ	▲43.0 ↗	▲12.5 ↗	▲6.4 →	▲6.9 →	▲10.3 ↗	12.5 ↗
	畜産	酪農(北海道)	▲46.4 ↗	▲11.7 ↗	85.9 ↘	62.7 ↘	▲16.0 ↗
酪農(都府県)		▲46.8 ↗	1.9 ↗	61.7 ↘	46.2 ↘	▲23.4 ↗	▲13.1 ↗
肉用牛		▲63.1 ↗	▲33.7 ↗	85.8 ↘	76.0 ↘	▲0.3 ↗	23.4 ↗
養豚		▲17.7 ↗	6.7 ↗	26.9 ↗	30.7 ↗	8.7 ↗	35.0 ↗
採卵鶏		▲32.0 ↗	24.8 ↗	74.0 ↘	▲6.6 ↘	8.0 ↗	29.1 ↗
ブロイラー		▲44.2 ↗	▲3.5 ↗	28.8 ↘	2.0 ↘	11.5 →	12.2 →

■天気図の見方について

●天気図は、DI (Diffusion Index) と呼ばれる指標により作成しています。●アンケートの各項目への回答は、「①良くなった ②変わらない ③悪くなった」から1つ選ぶ形式となっており、DIは、前年と比較して「良くなった」の構成比から「悪くなった」の構成比を差し引いたもの。●DI値に2.5以上の差異がある場合は上向きまたは下向き矢印。2.4以内の場合は平行矢印。注) 稲作および畑作については、上半期調査時では多くが未収穫のため、上半期の販売単価DIは調査していません。

五九・四↓▲一〇・五)など耕種部門で全ての業種が改善したのと対照的に、畜産部門では慎重な見方をしています。特に採卵鶏(七四・〇↓▲六・六)、ブロイラー(二八・八↓▲二・〇)は大幅に悪化しました。

設備投資見込みDIは全ての業種で改善し、一六年の半年経過時点での設備投資見込みDIは一五年一月調査時(▲二・二・八)から一八・六ポイント上昇し、五・八となりました。設備投資見込みDIがプラス値になったのは、一九九六年の調査開始以来、初めてのことです。二〇一五年の収支の改善を受けて、生産者が設備投資に前向きになっていると考えられます。

女性の関与増、収益にも寄与

「農業現場における雇用状況の動向、とりわけ女性の経営への関与」について調査したところ、「経営者が女性」「役員として登用」「管理職など幹部として登用」というように女性が経営に関与する経営体は五三・八%と全体の過半数に上ることが分かりました。

さらに、三年間での売上高と経常利益の増加率について調査すると、「女性が経営に関与している」グループでは売上高増加率が二三・六%、経常利益増加率が二二・六%

六%となり、「関与していない」グループと比べて、売上高増加率が一九ポイント、経常利益増加率が七一・四ポイント高く、女性の経営への関与は収益増にも寄与すると考えられます(表1)。

また、農業経営における女性の担当分野は、「生産」の回答が最も多く(六七・四%)、続いて「経営管理」(四九・七%)、「営業・販売」(二五・〇%)、「六次化」(一七・八%)となりました。

中でも、「六次化」「営業・販売」を担当していると回答したグループは、経常利益増加率が高くなりました(六次化:二三・二・七%、営業・販売:二五・四・二%)(表2)。「六次化」「営業・販売」といった分野において、女性目線で消費者ニーズを敏感に感じ取り、販売などにうまく活かすことにより、結果として高い収益の伸びに結び付いていると推察されます。

(情報企画部 浅野 真宏)

〔調査概要〕

- 調査時点: 方法
二〇一六年七月・郵送調査
- 調査対象
スーパード資金/農業改良資金
融資先(計二万二三八九先)
- 有効回答数
五九九七先(回収率二八・〇%)

表1 女性の経営関与の有無と売上高と経常利益の増加率

経営への関与		直近売上高	直近経常利益	3年前売上高	3年前経常利益	回答数
関与している 「経営者が女性 もしくは役員として登用 もしくは管理職など幹部登用」	平均(百万円)	295	23	239	10	1,816
	増加率(%)	23.6	126.6	-	-	-
関与していない	平均(百万円)	164	14	134	9	1,467
	増加率(%)	21.7	55.2	-	-	-

(注1) 売上高増加率: (直近の売上額の総和-直近から3年前の売上額の総和) ÷ 直近から3年前の売上額の総和
 (注2) 経常利益増加率: (直近の経常利益の総和-直近から3年前の経常利益の総和) ÷ 直近から3年前の経常利益の総和
 (注3) 経常利益について: 対象が個人事業主の場合は「所得金額」を用いた。

表2 女性の担当分野と売上高と経常利益の増加率

担当分野		直近売上高	直近経常利益	3年前売上高	3年前経常利益	回答数
生産	平均(百万円)	261	22	209	10	1,633
	増加率(%)	25.0	120.5	-	-	-
6次化 (加工、商品開発など)	平均(百万円)	25	422	7	7	439
	増加率(%)	21.1	232.7	-	-	-
営業・販売	平均(百万円)	342	21	270	6	618
	増加率(%)	27.0	254.2	-	-	-
経営管理	平均(百万円)	294	23	236	10	1,257
	増加率(%)	24.6	124.7	-	-	-
その他	平均(百万円)	641	38	509	15	246
	増加率(%)	25.8	165.1	-	-	-

(注) 項目は複数回答可